



事務所 伊那市西町5016-2 Tel(72)0077 例会日 毎週木曜日 例会場 くぬぎの杜 Tel(78)1121
 会長 藤澤洋二 幹事 小松献臣 会報委員長 城取健太 第2927回例会 2021.3.7 No.1587



ロータリーは機会の扉を開く

2020-21 年度 RI テーマ

Rotary Opens Opportunities

2020-21 上伊那グループ I.M.及び会員セミナー

3月7日(日)13時30分から、山田益ガバナー補佐の指揮の下、伊那ロータリークラブがホストとなり上伊那グループ I.M. 及び会員セミナーをウェブにより開催しました。

司会 唐木 拓 SAA

点鐘 上伊那グループガバナー補佐 山田 益

「君が代」「奉仕の理想」曲のみ

物故者への黙祷 山田 益ガバナー補佐

開会挨拶 I.M. 実行委員長 平出吉範

インターシティミーティングの実行委員長を仰せつかりました平出でございます。上伊那グループの会員の皆さまこんにちは。また、会員セミナーをお引き受けいただきました関パストガバナー、ご講演頂きます堀内先生本日はありがとうございます。この場をお借りいたしまして御礼申し上げます。

今回の上伊那グループ I.M. は昨年来の新型コロナウイルスに対する感染拡大防止策に基づき、ZOOM を使ったのオンライン配信となりました。前半は会員セミナーとして地区研修リーダーである関パストガバナーより「ロータリー モチベーション」というテーマでセミナーを開催させていただきます。記念講演では昭和伊南病院の堀内先生より「イグ・ノーベル賞と大腸がん」というお話をいただきます。

上伊那グループとしては初めてのリモート開催となりますため、不慣れな点多々あるかと思いますが、皆様のご理解ご協力をお願いいたします。

上伊那グループの会員の皆さまと顔を合わせて懇親を深めることのできる日が一日でも早く迎えられるす



ように祈念いたしまして、簡単ではございますが、開会の挨拶とさせていただきます。

ホストクラブ会長挨拶 藤澤洋二 会長

本日は、上伊那グループ IM を、山田益ガバナー補佐を IM リーダーとし、伊那 RC がホストクラブを務め、開催致しましたところ、成田守夫ガバナーをはじめ、大変多くのロータリアンの皆様へ、お忙しい中をご参加いただき、誠にありがとうございます。ありがとうございます。

また、大変お忙しいところを、関則貝パストガバナーには会員セミナーを、昭和伊南総合病院の堀内朗先生には記念講演をお願いすることができました。誠にありがとうございます。関パストガバナー、堀内先生、どうぞよろしくお願い致します。

現在、新型コロナウイルスの感染はまだ終息しない中、伊那クラブでは、会員の安全を第一に考え、例会、IGM など諸活動を、密を避けて行っております。ロータリークラブの大変大事な要素である、会員同士のコミュニケーションが十分に取ることができない、もどかしさを感じております。

今回の IM も例年のように上伊那グループの会員が



一堂に会して開催することは難しいと考え、リモートでの開催と致しました。残念ながら直接お会いし懇親会を通じて交流を図ることはできませんが、成田ガバナーの訓話、関パストガバナーのセミナー、堀内先生の記念講演を拝聴しまして、上伊那グループ全体での貴重な勉強の場とし、これからのロータリー活動に生かしてまいりたいと考えます。

来年の上伊那グループのIMでは、新型コロナが終息して、研修の後の懇親会を大きく行い、大いに交流を深めることができますことを祈念いたしまして、ホストクラブ会長のご挨拶と致します。

ガバナー補佐挨拶 山田益ガバナー補佐

国際ロータリー第2600地区
2020-2021年度：成田守夫ガバナーは、地区標語として「ロータリーを通してあなたの世界を広げよう (Expand your world through Rotary)」として、地区活動方針は「ロータリーから信州を元気に」と定められました。



そこで上伊那グループはこの方針に沿ってI.M.を開催する事としました。しかし昨年2月より新型コロナ(COVID-19)感染が収束していない今は密を避けるため「オンラインI.M.」としました。初めてのZoomでの事なので2月11日に平出実行委員長の指揮のもと「リハーサル」を実施しましたが当日は成田ガバナー、会員セミナーをお願いしている関邦則パストガバナー、記念講演をお願いしています昭和伊南総合病院：堀内朗先生にも参加を頂き本番に備えました。尚堀内先生は昨年3月1日に駒ヶ根RCがホストクラブでの開催予定されていたI.M.の記念講演が急遽中止となってしまいました。演題は「イグ・ノーベル賞と大腸がん」となっていますが、大変興味深い内容だと思いますので今年のI.M.も同じ演題をお願いしましたところ快諾頂きましたのでこのようにしました。

堀内先生は2018年9月「イグ・ノーベル賞医学教育賞」受賞され9月13日にはハーバード大学サンダース講堂で受賞スピーチをされました。

「イグ・ノーベル賞」とは、1991年米国ユーモア系科学雑誌のマーク・エイブラハムズ編集長

が創設した賞であり、面白いが埋もれた研究業績を広め、並外れたものや想像力を称賛し、科学、機械、テクノロジーへの関心を刺激するために始めたと言われている。日本人受賞者は昨年9月にも北海道大電子科学研究所：中垣所長が受賞されて14年連続の受賞となっています。

堀内先生の受賞内容は「座った姿勢での大腸内視鏡検査を自ら試し、苦痛が少ない事を実証」となっており「人々を笑わせ、そして考えさせてくれる業績」となります。

本日は堀内先生の記念講演を上伊那グループのより多くの会員の方々に聞いて頂きたいと思っています。

特別出席者および参加クラブ紹介



ガバナー挨拶 成田守夫ガバナー

国際ロータリー第2600地区、上伊那グループ「インターシティミーティング・会員セミナー」が、上伊那グループ山田益ガバナー補佐、平出吉範IM実行委員長、ホストクラブである伊那RC藤澤洋二会長はじめ、同クラブをホストとして開催されますことをお祝い申し上げます。



世界は新型コロナウイルスの1年以上の蔓延により混乱状態を招いています。しかし、見方を変えると、こんな時こそ一人一人の工夫と行動が社会に変化の種を蒔く可能性があります。それには地域の良さを皆様と共に考えることではないでしょうか？豊かな自然に恵まれ、水の美味しい信州は、自然を守ることで社会全体に貢献できる地域社会を形成しております。その上に地域奉仕、社会奉仕といったRCの奉仕活動を展開することのできる私共は恵まれた地域であり、グループで

あります。今日私が学びを深めたいことは、「他人を指差す時は残りの指が自分を指していることを忘れるな」と言ったその言葉でございます。まさにその通りだと思います。人様に向ける非難はしばしば自分にも当てはまる。自ら顧みる苦い思いと共にこの警句に頷く人は多いのではないかと思います。本日のIM・会員セミナーがお互いの理解を深め、ロータリーから信州を元気にできますよう、地域の魅力を語り合っただけならばと存じます。比べるよりも讃え合う事、そうすることで地域に活力と希望を創り出し、新たな奉仕の実践をめざすことが可能となります。本日のIMを機に新型コロナウイルスに負けない地域づくりを目指すとともに、これからはオンラインも必要ですが、一方で社会的距離を取りつつ「集まる」という事についても続けていくことが大切であると思います。ロータリークラブが上伊那グループと地域社会により大きなインパクトをもたらすことを祈念し、挨拶と致します。

第1部 会員セミナー

テーマ「THE ROTARY MOTIVATION」

講師 RID2600 地区研修リーダー

関 邦則パストガバナー

「THE ROTARY MOTIVATION」をもとに話された。テキストを作成された経緯は、ロータリークラブに入会して30年が過ぎたが教材を目にしたことがなく、ガバナーになることを契機に勉強され理解を深めるために作成された。4部構成になっていて第1部「ロータリーへのモチベーション」第2部「奉仕のモチベーション」第3部「リーダーとしてのモチベーション」第4部「持続へのモチベーション」となっている。単に教科書というのではなく、次のステップへ深めて活用してもらえれば本望です。とおっしゃって30分のセミナーを終えられた。



次期ガバナー補佐及びI.M.ホストクラブ紹介

次期ガバナー補佐挨拶 辰野 RC 松田泰明様

大変な役目を仰せつかりましたが、重責をできますか心配であります。現在71歳、職業は歯科医院を開業しております。推薦していただいた限

りはガバナー補佐として、皆様の暖かいご協力・ご指導をいただきながら精一杯頑張る所存です。

次期I.M.ホストクラブ会長挨拶

辰野 RC 伊澤秀之様

次のIMの開催地は、日本のど真ん中そして蛍の町辰野です。上伊那グループの親交を深める為、盛り上がるようにクラブ一丸となって頑張りますので、沢山の皆様のご参加とご協力をよろしくお願い致します。

閉会の言葉・点鐘 山田益ガバナー補佐

第2部 記念講演

演題「イグ・ノーベル賞と大腸がん」

講師 イグ・ノーベル賞受賞

昭和伊南総合病院

消化器病センター長

堀内 朗先生



昭和伊南総合病院は中央アルプスと南アルプスに挟まれた病院で、対象人口6万人程度で対象地域は1市1町2村です。小さな市で常勤の内視鏡医も5名しかいない病院ですが、コロナ禍の中で17,000件の内視鏡検査を行いその中で大腸検査が3,000件、内ポリープの切除が1,000件ありました。私の自慢ですが、これは長野県で1番です。

私はいつも思うのですが、何かの縁で医師になり、何かの縁で内視鏡医になりました、その中で私は自分が幸せでありたいと思っております。伊那食品の塚越寛さんがおっしゃいました「先生、自分が幸せになりたかったら、人を幸せにしなさいよ」と、特に年を取ってから、人を幸せにすることを真面目に考えております。

いつも新しいことに挑戦しながら、研究しております、昭和病院の研究で7名が博士号を取得し、米国の消化器病学会(DDW)では、世界で活躍する日本人内視鏡医3人の一人として私は紹介されました。また、大腸がんへ挑戦するなかで、研究発表と実績を重ね、2018年イグ・ノーベル医学教育賞を受賞いたしました。この研究、イグ・ノーベル賞受賞を通じ、日本のクリーンコロンの伝道師になろうと決心するに至りました。私は、内視鏡は、日本の文化であると世界に発信していきたいです。